



あら **エッサくん**
「アウトソーシング (外部委託)」
の巻 石田行生



かんぼ 神庭のくちなわ岩

今から240年ぐらい前のことです。植田村に住んでいた亀若と芳松という子どもの兄弟が、「くちなわ岩」と呼ばれる岩のまわりで栗を拾っていました。この岩にはその名のとおり、くちなわ(大蛇)が住むと言われていましたが、兄弟は気にもしていませんでした。かごが栗で一杯になり、帰ろうとしたとき、「ザーッ」と地面を擦るような音が聞こえました。音が鳴った方を見ると、なんと大蛇がくちなわ岩から這い出して来るのです。兄弟は「くちなわだ!」と叫ぶと、かごを捨てて逃げました。すると大蛇は飛ぶように這い、あっという間に兄弟に追いつくと、大きな口で兄の亀若をペロリと飲み込んでしまったのです。

家に飛び帰って来た芳松に話しを聞いた父は、すぐにまさかりを担いで山へ走りました。岩の近くまで来ると、大蛇が大きなお腹で苦しそうにとぐろを巻いてあえいでいます。それを見た父は「おのれ!」と叫ぶと、首根っこをめがけてまさかりをカ一杯振り下ろしました。すると蛇の血が飛び散り、ドロドロした液体と一緒に体中の毛が溶けた亀若が流れ出てきました。急いで父が亀若を抱きあげると、なんとか息を吹き返しました。しかし、この日以来、亀若には毛が一本も生えなかったということです。



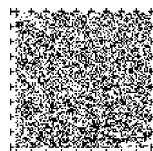
▲山中にあるくちなわ岩

くちなわ岩 (神庭町)

やすぎ再発見

神庭町奈賀江から30分程、山道を登ると標高270m付近の山中にくちなわ岩があります。人の高さの倍以上もある巨石は、お話しのとおり大蛇がいても違和感がないほどの異様な存在感を醸し出しています。

巨石周辺は、海外引揚者が昭和21年頃から開拓した場所で、最盛期には4世帯が居を構えていました。野菜や果樹を栽培し、発電機で電灯をともして生活されていましたが、20年ほど前に最後の1軒が山を下りて集落は閉鎖されました。今も周辺の草木の中にブロッコや建物など痕跡を確認することができます。



- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています●
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください●
- 自治会宛の発送等につきましては、市民参画課(TEL23-3067)までご連絡ください●



古紙配合率70%再生紙を使用しています